

第31号

平成20年3月8日

理
窓

理窓教育会報

東京理科大学理窓教育会

事務局 東京理科大学理窓会館4階

巻頭言 『教育の原点を見つめて』

東京理科大学理窓教育会 会長 (33K)酒井 淳

昨年10月の第53回学校読書調査によると、本を読まない児童・生徒の割合が、過去10年で大幅に減少してきたことが、毎日新聞社が全国学校図書館協議会の協力を得て明らかになった。学校での一斉読書活動の広がりに加え、今年の調査では中学生の野球小説『バッテリー』と、大流行しているケータイ小説が牽引役となっている。一斉読書については、実施校の大多数の児童・生徒が肯定的にとらえており、『本を読むことが増えた』など本好きになる効果を感じる子供たちが多いことも分かった。

全校一斉読書の時間を児童・生徒はどう感じているのか。複数回答で聞くと、小中高とも『本が読めるのが楽しい』、『静かに過ごせるのでいい』、『もっと長い時間にしてほしい』を合わせると小学生88%、中学生83%、高校生75%が答えている。この好評価が読書習慣となることを願っている。

一方去る12月に発表された、経済協力開発機構(OECD)の生徒の学習到達度調査(PISA)の結果は、わが国高校生の理科に対する関心や学習意欲が参加国中最低レベルであるとの報告があった。

この報告で頭に浮かんだことは、4年程前になるが、当時放送大学教授新井郁夫先生の内外教育の『ひとこと』欄である。『インドのムンバイで開催された世界教育連盟の大会に参加された折、目から鱗が落ちるような教育を行っている幼稚園から第12学年までの一貫学校を訪問された記事であ

る。

この学校は、SMT・スロチャナデビ・シンハニア・スクールと呼ばれている。ムンバイ郊外、人口約10万のセーン町にある。私立でありながら、入学試験は行っていない。卒業生は工学や医学分野に進むサイエンススクールであるが、幼稚園は遊び中心、第1～第5学年は、教科書は一切使わずプロジェクト方式による総合学習(integrated learning systemと呼ばれている)のみで教育課程を編成している。全学校時間が子供の自主性を尊重した総合学習に充てられているのであるが、感激ひとしおであったのは、美術、音楽など芸術が必修となっていることである。教師の指導力も相当なものと同視した。』

インドの教育の中でも例外的存在だとは思いますが、これこそ心の教育を踏まえたサイエンススクールではないかと思ったのである。

人間は、生れながら誰れしも素晴らしい感性や個人に備わった能力を蓄えている。しかし、残念ながら日本の教育は、成長段階で、感性を通して、育てられる個々の潜在能力が引き出されていないどころか、むしろ家庭教育、学校教育、社会教育では否定的な方向に傾いているように思われる。また、学校教育では、教科至上主義に陥っているのではないかと。各教科の垣根を越えた教育、学習方法に転換することは、焦眉の急と思われる。

人間の人間としての役割は、人間が持ち合わせている感性と知性を互いに磨きあげ、

協調しながら自己開発を持続することにある。
(東京女子学院中学高等学校長)

平成19年度 総会報告・全国支部長報告

岩手支部総会報告

支部長(42S) 石川 明彦

本年度の理窓教育会岩手支部総会は平成19年11月13日(土)10時、ホテルエース盛岡(盛岡市中央通 2-11-35)で開催致しました。通常の議事の中で、東北地区の担当副会長職を前任者の宮城支部(平塚正好氏、平成13年から平成18年)より申し送りを受け本年度から3年間は岩手支部が勤める事を報告し、その次は秋田支部へ申し送ることとした。議事のあとの情報交換会では、下記の3件報告して頂きました。

1. 「インターネットによる微生物の教育啓蒙活動報告」

北里大学 野村節三名誉教授

お話は、用意されたプリントを基に、これまでの活動の「微生物の用語解説」「理科好き子供の広場」の報告、更にこの先続けられる「海とその生態系」「陸水」に付いても詳しく、興味深い解説を頂いた。

2. 「岩手大学教育総合センターの活動」

岩手大学教育総合センター 江本理恵先生

用意されたプリントとスライドを用い、岩手大学教育総合センターの組織や役割を紹介し、FD(ファカリティ・デベロップメント)の必要性やその活動の中での教員を相手の苦労話を紹介して頂いた。

3. 「赴任校 黒沢尻工業高等学校の紹介とその活動」

黒沢尻工業高等学校 眞岩一夫先生

用意されたプリントとスライドを用い、赴任に伴う苦労、物作りを主眼に県の教育事業や多くの企業との共同教育事業に携わる活動や苦労話を紹介して頂いた。

茨城支部総会報告

支部長(46B) 小林 康則

平成19年度の理窓教育会は、平成19年10月27日(土)15:00から水戸三の丸ホテルにおいて理窓会茨城支部総会に包含される形で行われた。当日は台風20号の接近による強風雨であったが14名の教育関係者の参加があった。(理窓会全体では50名近い参加)

茨城県では毎年理窓会総会の式次第の一部として理窓教育会よりの発表の場が設けられておりお話しする機会をいただいた。

これは長年教育界に対して多大な貢献で君臨してきた理科大独特の配慮であると思うが、教育関係者の一員として毎年ありがたく誇りに感じている。しかし振り返ってみると、戦前や戦後の一時期を除き理窓会員の中の教育関係者の割合は徐々に低下し、現在では卒業生のうち教職に就くのは100人足らずと聞いている。

たしかに教育現場では、投資効果の追求、進学結果などの成果主義の競争、生徒や保護者の権利意識の肥大化、教師への過度な期待や無限責任的な要望、雑用の増大等、現職の教員の苦労だけにとどまらず、学生の教職への意欲を萎えさせてしまうような要素がこの20~30年の間に累進的に膨らんできているように思える。まずはこのような悪循環を断ち切り魅力ある教育現場にするのは我々先輩の務めであろう。

一方、理科や数学の教員というと真っ先に思い浮かんだ理科大卒のイメージが過去のものとならないよう、主に大学院修了者(特に博士課程修了者)に教員を志向してもらえよう、教員養成へ向けての支援環境の変革や整備も火急を要する問題と思う。

僭越であったが、上記のような趣旨でお話申し上げた。

群馬支部総会報告

支部長(46B) 辻村 好一

群馬支部では、平成19年度支部総会を平成19年12月1日(土)にウェルシティー前橋にて開催しました。

毎年、この時期に理窓会支部総会と理窓教育会支部総会をともに実施し、そのあと懇親会を行うのが恒例になっています。今年の出席者は16名と少ない人数となりましたが、理窓会本部からはお忙しいところを山田善幸様にお出でいただきました。山田様には大学の近況や125周年記念行事を中心に理窓会の活動状況を資料を使いながら丁寧にお話いただき感謝いたします。

その後の懇親会では会席料理を味わいながら参加者一人一人の近況報告等を行いました。教育関係者の多い中それぞれの立場で県教育界の現状と今後の展望を語ったり、また職を勇退なされた同窓は趣味の世界、健康状況を語るなど、なごやかで意義のある会となりました。理科系単科大学の卒業生は堅実だが交友の輪を広げるのは不得手な気質がある等の話も出ましたが、今回の総会では、若手の参加もあり、さらに今後、若手の会員を支援できる活力ある支部でありたいとの願いから支部会員ができるだけ若手会員に声をかけ懇親会に招待しようという建設的な意見も出されました。

時のたつのも忘れて進行した懇親会も母校の益々の発展と次回の総会での再会を確認し無事閉会となりました。

埼玉支部総会報告

支部長(47修K) 長澤 智則

埼玉支部総会は理窓教育会会長酒井淳先生をお迎えし、参加者25名で平成19年12月8日(土)に行われた。総会においては、埼玉支部会長挨拶、酒井会長挨拶、役員改選、平成19年度の事業計画及び会計報告、平成20年度事業計画及び予算案

等が提案され承認された。事業計画では、理窓会埼玉支部総会への出席、久喜校舎学園祭の支援等が話し合われた。なお、ホームカミングデーの参加は5名であった。総会後は同窓生である明星大学理工学部環境システム学科の吉澤秀治教授(48OK)より、「炭と微生物による環境浄化」について、炭と微生物の相性、炭まきによる樹勢の回復、炭と微生物による河川や工業廃水の浄化、また、家庭、旅館・ホテル等から出る生ゴミや畜産農家から出る家畜フンに粉炭を添加して、悪臭の抑制、堆肥の高品質化、堆肥化時間の短縮化等の具体的な事例をあげ、バイオマス資源の循環型環境リサイクルの必要性についてご講演をいただいた。

懇親会では、各参加者の自己紹介や近況報告、各学校の現状や理数教育のあり方等の情報交換もあり有意義な総会であった。特に、今回は4月に新採用となる2名の先生も参加してくれた。本会としても、新任教員との連携が強化され、本県高等学校教育に大きく貢献する人材を育成したい。

本支部の課題は、会員数の確保と理数教員としての教育力向上のための研修会の実施である。現在会員数は87名であり、この数は本県の理科大卒教員の3割程度であると思われる。私立高校の同窓生も含め、各学校で活躍している同窓生の掘り起こしも急務であるが、併せて、今後は同窓生による理数教育の指導内容や方法、教材開発等の研修会の必要性を強く感じている。

東京支部総会報告

支部長(49専S) 廣瀬 和昭

平成19年度の東京理科大学教育会東京支部定期総会は9月29日午後4時より、森戸記念館第1フォーラムにて行われた。昨年は新しい試みとして木曜日の夜に実施してみたが、参加者の増加にはつながらなかったため、今年度は従来通り土曜日に実施することにした。やはり、土曜日の方が動きやすいのか出席者数は前年度より増加

した。理窓教育会の酒井淳会長よりご挨拶していただいた。今、理窓教育会は理科大学を支える同窓組織として重要な会である。教員志望者が多くなっている昨今、大学にはしっかりした教職への理解をしてもらわなければ困る。そのためにも、この理窓教育会東京支部が力強い組織になる必要がある、と力強くお話された。つぎに、運営委員会の各部会や各委員会から平成18年度活動報告があり、続いて全国組織の状況や全国組織などの報告が伊藤理事からあった。また竹本会計委員長より会計報告があり承認された。また、平成19年度の活動計画が報告された。平成98年6月に創立125周年を迎え、母校創立125周年募金活動について酒井会長からさらなる推進のお願いがあった。また、11月24日(土)野田校舎で行われる「第2回ホームカミングデー」には多くの会員が結集するように、小野理事、會田理事から発言があり、参加券購入の分担を行った後、無事総会は閉会した。引き続き森戸記念館一階で懇親会を行った。約三十名が出席して、私学部会の北原理事の司会で懇親会が開かれた。酒井淳会長は挨拶の中で、理科大出身の教員は多数輩出されているが、より一層優れた教員に育つように互いに協力しあい、助け合いながら改めて理窓教育会の重要性を訴えた。この教育会は大学と同窓の教員とを結ぶ重要な役割を果たしているはずなので懐の深い協力体制を構築してもらいたいとお話された。

総会・懇親会は和やかな中にも収穫の多い満足感に満ちた内容であり、東京理科大学、理窓会、理窓教育会の発展を誓い、盛況のうちに終了した。

神奈川支部総会報告

支部長(41B) 鈴木 宏司

本県における支部総会は、理窓会神奈川支部定期総会と兼ねて、毎年7月に行っている。この支部定期総会は、神奈川県を6つの地区(それぞれの地区に幹事長と数名の幹事がいる)に分けて、その地区が輪番で総会を担当するという独特な方法で行っている。今年度は県央地区がその任に当たり、7月21日にオークラフロンティアホテル海老名にて開催した。

総会においては、まず今期で退かれる栗原理窓会神奈川支部長より、創立125周年事業、ホームカミングデー、そして神奈川支部総会参加者の拡充などを中心としたお話があり、終りに支部長在任中の会員各位の協力に対してのお礼と感謝のご挨拶があった。次に講演という形で塚本東京理科大学理事長から「大学の現状と将来」というタイトルで大学の現在の様子と将来計画及びその大いなる抱負についてお話をいただいた。続いて児島理窓会幹事長より「理窓会ルネッサンスについて」というタイトルで理窓会本部の動向及び新たなる推進計画等についてのお話があり、その後議事に入った。19年度事業報告、収支決算報告そして支部新役員の選出、20年度事業計画案、収支予算案の議題が滞りなく承認され、新役員の挨拶があり無事に総会を終了した。

総会の後、懇親会に入り、塚本東京理科大学理事長、児島理窓会幹事長、関根理窓会東京支部長、並木理窓会常任幹事、森野東京理科大学維持会会長を迎え、総勢55名ほどの参加を得て、和気あいあいとした雰囲気の中、盛大に行われた。

以上であるがその他の報告としては、神奈川県立高校の管理職の集まりである「神楽会」が順調に推移しており、今年度も年2回の研修会・懇親会を実施した。また、前回の報告で触れていた総括教諭、教諭を対象とする会「神楽坂の会」を立ち上げることができたことも報告しておきたい。

富山支部総会報告

支部長(460S) 小川 悦朗

去る6月30日(土)、JR富山駅から程近い高志会館を会場に支部総会を開催いたしました。

私どもにとって、この機会は母校の沿革と今後の発展の方向性に思いを寄せる数少ない機会であります。併せて、同窓諸氏の活躍に意気感を感じる場でもあります。

大学から、理事 村田雄司氏を始め3人の方の来県を得、社会的要請に応える母校の様子や「理窓会ルネサンス」の進捗状況などについて、ビジュアルにプレゼンテーションして頂きました。このことに対し、この紙面を借り、厚く御礼申し上げます。

後半の部では、昭和59年薬学部製薬学科をご卒業された、富山県立大学教授 中島範行先輩の講演を行わせて頂きました。

「生理活性を有する化合物の合成と活性：おもしろさとむつかしさ」と題したものであり、私には、いささか及び難しいものでありました。しかし、そのなかで、バイオ技術を駆使してカフェインを制御したコーヒー豆の栽培の話が、印象深く脳裏に残っています。他には、大学が小中学生等を対象に、「ふしぎ」からくる好奇心を駆り立て、理科のおもしろさを体感させる企画・運営をなされていることも伺い知ることができました。

天然資源の少ない日本という国にあって、人材を育て工夫・知恵・技術を生みだし、それを価値としていくことの意義の大きさを改めて痛感させられた講演でありました。

最後に、本多理窓会支部長によるあいさつで、懇親の宴を持たせて頂きました。

私たちは、それぞれ勤務する場、立つ位置の相違はあれ、「理学(理科教育)の発展こそ、国の本体なり」の気概をもっていかなければと決意し、総会を閉じさせて頂きました。

山梨支部総会報告

支部長(53B) 橋田 多喜夫

山梨県支部総会は、例年理窓会山梨県支部総会と合同で開催しており、本年度は平成19年9月29日(土)16時から甲府市「ニュー芙蓉」で、19人の参加のもとで開催された。

来賓として、東京理科大学から塚本桓世理事長、理窓会本部から児島紘幹事長、東京理科大学維持会から森野義男会長、地理的に近い諏訪東京理科大学から西山勝廣システム工学部長の4人をお迎えして開催した。

塚本理事長からは、神楽坂キャンパスの未来図をはじめとして、多くの外国大学との協力関係、理窓会5か年計画・理窓会ルネサンス3年目の状況等盛り沢山の内容をお話いただいた。大学の施設設備のますますの充実状況をお聞きして、母校の発展をうれしく思った。児島幹事長からは、同窓会の大学への協力について理窓会ルネサンス3年目の活動方針や進捗状況をお聞きした。森野会長からは、維持会についての説明と、125周年募金のお話があった。西山先生からは、4年制となって6年目を迎えた諏訪東京理科大学の教育や、卒業生の大学院への進学状況、好調な就職状況等、卒業生の活躍をお聞きした。

武藤支部長からはこの1年間の理窓会の活動報告があり、父母会「こうよう会山梨県支部」総会の報告もあった。

懇親会では、参加者一人一人の近況報告があり、本県で今年度から実施された高校入試改革に伴う各高校の様子を現職教員から聞くことができ、本県高校教育事情を聞いて充実した時間を過ごした。

本年度若い同窓会員の参加もあったが、理窓会・教育会両支部の課題である若手の参加を図るため、県内で活躍の同窓教員の講演等を企画して、若い先生方の支部総会への参加を呼びかけたいと考えている。

静岡支部総会報告

支部長(43K) 恩田 征弥

当支部は発足して15年目を迎えた。本年度の支部総会は12月1日(土)、現会員数35名のうち19名(小中関係5名、高校関係14名)の参加を得て、静岡市において開催された。年一度の出会いであるが、新会員や久々の会員もあり、豊かなひとときを持つことができた。

日ごろは理科大の伝統である「独立独歩」の精神で、それぞれの持ち場で存在感をもって仕事や趣味に励んでいる様子も披露された。

今後とも、新会員の発掘に努め、会員相互の絆を大切に会を維持・発展させていきたい。

以下に当日の議事等を報告する。

○藤原有恒理窓会本部幹事講話

①理窓会幹事会(6月24日開催)の報告

塚本理事長の続投、学生支援、HPの充実、情報発信、会費納入促進、理科大発祥の地特定、ホームカミングデーの内容

②理科支援員等配置事業の説明と協力依頼

③理窓会ルネッサンス5カ年計画

会員の親睦、大学発展への協力、社会貢献を目的とした計画

○支部長報告

本部作成の「教育会報」の紹介、会費納入状況、19年度理窓教育会総会での議事事項の説明

○情報交換：話題となった主な事項

①学校の統廃合・再編成への取組み

・単位制高校の開校準備の体験

・工業高校の2校統合の経過報告

②SSH事業を受けての理数科の取組み

③地域における中高の連携

④定年後の地域貢献

⑤私学の現状

etc.

京都支部総会報告

支部長(40S) 田中 理房

私ごとですが、京都府立の高等学校にお

ける奉職を辞して、5年が経過してしまいました。その間、日本スポーツ振興会・京都府少年教育振興会にお世話になり、直接教育現場から距離を隔てての勤務をしてまいりました。そして昨年4月より京都府内の京田辺市教委にそれまでの経験とは全く縁の無かった、幼稚園教育を主とした指導主事の仕事をお手伝いさせて頂いているところであります。

我が身を振り返るとき、戦後、人の心は荒んで、食べることに汲々として、幼稚園に行く余裕などなかった、そんな中でも周囲の大人の人たちは、子どもを大切に見守って育てることを忘れなかったと思えるのです。

ところが、飽食の今の時代、欲しいと思えるものは、お金さえ払えば手に入る、そんな物の豊かな時代、大人による幼児・子どもへの悲惨な事件やニュースが後を絶ちません。

子ども受難の様相に立ち向かうためにも、教育に関わる者は毅然たる態度を忘れないで、子どもに豊かな日々を授ける、その使命を持つことこそ「今が大切」ではないでしょうか。

そのためには未来ある若い教育を目指す学生に、先生とはどんなものであるのかを学び、自らが実践し、自らの背中をしっかりと見せられる大人となることではと思うしだいでありませう。

近年教員の資質を問われる事象には枚挙にいとまなく、眉をひそめたくなることばかりであることは、専門的学力は勿論であっても、教員として相応しい条件を満たし得ない一握りが教員採用の網をかいくぐっていると云わざるを得ないのでしょう。すべての校種における教職を希望する人材は、先ず専門的知識を持ち、健康で、仕事が好きで、何事にも行動に移せる人物で、何と言っても子どもが好きだという人材を私達は、今も昔も常に求めているのだと言うことを、声高に伝えたいものであります。

京都支部には、十数名の中学高等学校に

勤務する教職員がそれぞれの地域で活躍しています。しかし残念なことに、一時と比べ日々の生徒と対応する本来職務に、多様化する校務処理に要する時間に迫られている現実を見ると、同窓教員が一同に会する機会を持つこと事態ままならぬと言うことが、実情であって、ここ4年は支部による総会が持てない状態をどのように解決できるか、目下思案しているところであります。

広島支部総会報告

支部長(47S) 河野 正憲

教育会支部総会は、平成19年9月23日(日)にホテルセンチュリー21 広島で理窓会総会に先立って会員11名が出席して開催しました。今年は若い会員の出席もあり活気がありました。

本部からは塚本桓世理事長、森野義男維持会会長、児島紘幹事長にお越しいただきました。

議事内容は次のとおりです。

- 1 平成18年度の行事報告および決算報告
- 2 平成19年度の行事予定および予算案

理窓会総会では、塚本理事長より、最近の東京理科大学における教育・研究や野田キャンパスの再構築及び九段校舎、神楽坂第2号館完成予想図等の説明をしていただき、母校の素晴らしい発展に卒業生として誇りを感じました。

引き続き、羽田啓二副支部長より、「マツダ(株)における自動車の開発プロセス概要」の演題で講話があり、選択と集中をもつての目標決定、目標達成の戦略等を研修しました。

東京理科大学で学んだ私たち同窓生は、お互いに縁を大切に、教育会および理窓会支部会員の和を広げていきたいと思えます。

福岡支部総会報告

支部長(32B) 西嶋 進一

本年も昨年同様に福岡支部総会を理窓

会と教育会の合同で開催しており平成19年11月23日(祝)12時から博多パークホテルにて20名の参加で実施しました。例年の催しと特に変わった事は①20年間支部長を務めた私が退任し新たに48年卒の長信成氏が新支部長に選出され、新たな組織や運営づくりに専念していただくことになりました。②16年5月に設立されました浩洋会(父母会)との密接な連携を図るため今回から県の浩洋会の会長と副会長を当会に招待し在校生と卒業生の交流を深めることになりました。③母校の空気満喫、満足の第2回のホームカミングデー(総会翌日の24日)に卒業後50年を起える同窓生250名を迎えての祝賀パーティに参加し招待者を代表して挨拶を行い同窓生、在校生、教職員など全ての大学関係者にとって新たな絆を確かなものとして実感できた一日でした。

省みますれば塚本理事長は平成14年12月に就任され15年4月より「21世紀の科学は良心に向かう」のコンセプトを掲げ「創立125周年記念事業を実施する」と発表され、又酒井会長は平成15年10月に就任され「理事長をはじめとする大学に伝えるため理窓会と手を携え全国会員の皆さんと共に着実な教育会の活動が展開できますよう邁進したい」と述べられました。その過程で教育会の理事3名から15名に増員され事務局の仕事の分担と運営改善を図られたり教育会を理窓会の関連組織に位置付けられ教育会ホームページも開設されました。

25号では横書きにスタイルが変更され巻頭言として原稿を提出しその後は順調に流れ26号では地区別支部長会を全国に先駆けて報告し29号でも報告と雑感を記しました。125周年も無事終わり何の不手際もなく今日を迎えられたことは会長他役員の皆様方の理解と協力のたまものと深く感謝致します。

同窓の活躍

中学校理科教育の現状

中野区立第九中学校長(49B) 宮下 彰

私は、現在東京都中学校理科教育研究会の会長をさせていただいております。その立場から、中学校の理科の現状や本研究会の活動などについてお話させていただければと思います。

ところで、都内の中学校の数は、以前667校ありましたが、生徒数の減少に伴う統廃合により、現在635校になってしまいました。さらに各学校の学級数も減じてきているのが実態です。かつては全校生徒が1000名を超え、一学年が10学級を超える時代もありましたが、現在は各学年2～3学級の学校が多くなってきております。そのため、理科教員が1校に1名しかいない学校が増えてきているのです。このことにより、学校内で理科の授業をどのようにしたらよいか、など指導方法を同僚の理科教員から学ぶ機会がなくなってしまったという状況が生じてきております。

【本研究会の活動】

そこで、私ども研究会では「若手を育てよう」「研究の裾野を広げよう」を大きな目標とし、研究授業や見学会など様々な活動を実施してきております。特に、今年度は都内理科教員の日頃の研究成果を発表する会員研究発表会を国立科学博物館で実施し、平日の授業日であるにもかかわらず120名を超える先生方に集まっていただくことができました。出張しにくい昨今の状況から考え「よく集まってくださった」と、熱いものを感じた次第です。ここでの発表を含め、2本の研究成果を今年8月に行われる全国中学校理科教育研究会(会長は同窓である葛飾区立双葉中学校長の瀬田栄司先生です)の千葉大会で発表いたします。

また、53回目を迎えた生徒研究発表会を今年度より土曜と日曜の開催とし、1月26日(土)と27日(日)にかけて母校である東京理科大学の10号館で実施させていただき

ました。寒い日でありましたが、早朝から暖房を入れておいてくださるなど、きめ細かく対応していただき、厚く感謝申し上げます。次第です。

さらに、今年度より、本研究会といたしまして「研究員制度」をスタートいたしました。このことは、東京都教育委員会が教員を育成するため長年実施してこられた研究員や開発委員、東京の教育21開発委員などが廃止されたことに伴い「私たち東京都中学校理科教育研究会が若手を育成していくしかない」との思いから実施の運びとなったものです。現在第一期生が研究を深めているところです。この制度は、今後も継続的に行ってまいります。

私どもは、これらの活動を通し、研究の幅の広がりと共に、都内各地への裾野の拡大がなされていくものと考えております。

【理科教育の課題】

さて、昨年12月、OECD国際学力テスト「学習到達度調査」(PISA2006)の実施結果が発表されました。この調査は、対象を中学校卒業段階にあたる15歳の子どもとし、2000年以降3年に一度実施されてきているものです。そして、今回の結果において学力では数学が前回の6位から10位となり、理科も2位から6位に下がりました。どうしても下がったことに目が向けられていますが、前回(2003年)の41の国や地域の参加数に比べ今回は57の国や地域であることを考えると、母数が増えているのですから、前回調査とそれほど変化はなかったと見ることもできると思います。

しかし、それ以上に残念なことがありました。理科学習に関するアンケートの結果です。「関心・意欲」などが57の国や地域の中で、何と最下位となり日本の子どもは極めて消極的である、ということが明らかになったのです。これらの結果は、識者の

方々が指摘しておられるような「日本の子どもの勉強離れ」や「知離れ」が進んでいるということなのではないでしょうか。私はそればかりではないと思います。と言いますのは、2000年に実施された最初の調査において、日本は理科が1位でした。しかし、その後の追跡調査では、参加国中、下から3位になってしまったのです。このことが示すように、日本の子どもは学習しているそのときの学力は高いが、それ以降も引き続き定着しているかということそうではないということなのです。言い方を換えれば「瞬間的学力」であったと言っても過言ではないと思います。このことをどのように解決していくかがとても大事なことではないでしょうか。

次期学習指導要領では、理科の授業時数が増加しますが、それだけでは解決できるものではありません。私は最も大切なことは、子どもの身近にいる大人が理科を大好きになり、理科の楽しさ・おもしろさを子どもに大いに語り、体験させていくことが、子どもたちの理科に対する「興味・関心・意欲」を高め、学習の定着にも繋がると 생각합니다。可能性を沢山秘めている素敵な子ども達のため、私どもは更に努力してまいります。同窓の皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

大学との連携

(36B) 伊藤 操

1. 入学前学習支援事業への協力

この事業に教育会が参入して2年目になります。今年度の学習科目は、数学、物理、化学、生物、国語、英語であり、教育会会員の分担するのは数学、物理、化学であります。今年度の活動は、①問題集の改訂 ②添削と講評の作業であります。今年度も大学院生の応援を得て行っております。昨年度は添削を3回いたしました。生徒への返却は最後にまとめて1回だけになってまいりました。今年度は、返却も3回にして、添削講評と返却が連動し、生徒は添削講評が次の学習に活かされていると期待して

おります。

[昨年度実施の高校生のアンケート結果]

入試センターのまとめの一部を述べます。

ア どの講座も①「大満足」と②「満足」を合わせると、ほぼ85%以上である。

イ「大満足」が多かったのは、物理と英、国（自然科学系）であった。理由は、物理が高校の分野を網羅していて、復習ができたからとあり、英、国はインターネットでの「調べ学習」が好評だったようだといふ。

ウ 難易度は「難しかった」が多かった。数学科以外の入学者の数学で41%、同物理で27%、同化学で17%、国・英（自然科学系）で37%であった。それに対するコメントは「だからよかった」と「不満」に分かれた。

エ「この講座で実力がついたと思うか」についても、「大変思う」「まあ思う」合わせて、すべての科目で80%を超えている。

オ 数学を選択した生徒でアンケート回答者が87人おり、そのうち数学科入学者が5人で数学科以外は82人であった。物理は物理科入学者は0人、物理科以外は60人、化学は化学科入学者は11人、化学科以外は32人であった。このことから、自分の専門科目以外の科目を入学前学習として準備していることが分かる。

以上がアンケート結果であります。これらを踏まえて、理科大学の入学前学習事業を改善していかなければならないと思います。

私達の母校に対する熱い思いを、1月29日の第1回添削打合せ会・添削作業に見ることができました。この事業が、必ずや、科学技術立国の人材育成に繋がっていくと信じています。

2. 小学校理科支援事業への協力

(43K) 會田良三、(47B) 齋藤常男

東京理科大学の組織として、「理数教育アシストセンター（仮称）」を設立し、各支部長を通して「理数教育アシストセンター（仮称）」への登録を呼びかけてまいりました。

しかし、今年度は、とりえず理科支援員を引き受けていただく退職教員および技術者OBを募集していくことになり、7月5日付けで各支部長に協力のお願がありました。（前号に既報）

○東京都の動き

(36B) 伊藤 操

小学校理科支援事業への取り組みですが東京都の場合、区段階の教育委員会では、まず、

実施可能な小規模の活動を実施しようとしているところが多いようです。

都内数区から東京理科大学に相談に来られて、すでに活動に入っております。例えば、北区には学部生、大学院生合わせて8人、江東区には学部生2人が小学校に配属されております。中央区には教員OBが科学館への配属になり、間接的に小学校理科支援になっています。さらに4月以降数学にも枠を広げていく計画が伝えられています。世田谷区から近々相談に来られる予定になっております。

このような、まず小さな実践を積み重ねて、その経験を踏まえて大きな動きにしていくことが期待されております。その潮流の中核に理科大学があるのだと、実感しているところです。

事務局について

総務理事 (41S) 坂本 功

1. 支部 (支部長) との連絡の窓口

大学入試センター嘱託員の野原良夫先生が退職されました。後任として澁谷重雄先生 (44S) が昨年10月1日付で着任いたしました。

澁谷重雄先生は「学生募集の広報」「入学前学習支援事業」等を中心に、教育会支部 (支部長) と大学、教育会本部の連絡の窓口業務を担当することになっています。

[窓 口] 入試センター 澁谷 重雄
在室 (火、土) 10:00~16:00
(昼休み 12:45~13:45 を除く)

5 03-5228-8092 FAX03-5228-8093

メール shibuya_shigeo@admin.tus.ac.jp

2. 一般の連絡の窓口 (再掲載)

理窓教育会事務局を下記の理窓会事務室に同居させていただいております。しかし、常駐事務担当者、教育会専用の電話、FAXは財政上、置けない状況です。

会員のみなさまには甚だご不便をおかけいたしますが、当面、郵送による「書面」でのご連絡をお願いいたします。

① 書面での連絡先

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-13-1
理窓会館4階 理窓会事務所内
東京理科大学理窓教育会 宛

② 急ぎの連絡 (メール通信)

isokmt@rs.kagu.tus.ac.jp

(総務理事 坂本 功)

理窓教育会ホームページ (再掲載)

「東京理科大学同窓会」のホームページの中に「理窓教育会」のものがああります。ホームページアドレスは次の通りです。

<http://risoukai.rikadai.jp/>

検索で「東京理科大学同窓会」を入力して、トップページを開き、「関連団体ホームページ」をクリックし、さらに「教育会」をクリックしても開きます。

平成20年度 教員採用試験合格者数

平成20年2月15日現在

校種 教科	公立				公立				公立 合計	私立				私立 合計	公私 合計
	小学 校	中学校 数学	中学校 理科	公立 特別 支援	高等学校					中学・高等学校					
		数学	物理	化学	他	数学	物理	化学	生物	数学	物理	化学	生物		
北海道		1								1				0	1
岩手										0	1			1	1
宮城										0		1		1	1
福島										0	1			1	1
茨城		1								1				0	1
群馬		1								1	1			1	2
埼玉		3								3	2			2	5
千葉		9								9				0	9
東京	4	30	13	3						50	9	2	2	13	63
神奈川		3	2							5	1			1	6
横浜		1								1	2			2	3
新潟		2								2				0	2
福井		1								1				0	1
長野										0	1			1	1
静岡										0	1			1	1
愛知		2	1							3				0	3
三重		1								1				0	1
大阪		1								1				0	1
岡山		1								1	1			1	2
広島		1								1	1			1	2
合計	4	58	16	3	0	0	0	0	81	21	3	2	0	26	107
19年度		23	5		5	1			34	24	4	4	3	35	69
18年度		27	5		7	2		1	42	16	2	2		20	62
17年度		40	4		11			2	57	18	3	1		22	79

昨年度までのデータは最終値、今年度のは現時点値である。
中学・高校共通採用の場合は中学校としてカウントした。